

保育士養成教育における保健教育 —模擬体験による学びの深まり—

大 土 恵 子

1. 問題の所在

幼児教育施設における感染症対策に関して「保育所における感染症対策ガイドライン」(厚生労働省, 2018) が子ども家庭庁により 2023 年に改訂された。ガイドラインでは「医療の専門家ではない保育士等にも積極的に活用いただけるものとなるよう、実用性に留意し」と記述されているように、行政側も医療の専門家ではない保育士等が医療にも従事し感染対策にも携わることを念頭に置いていることがわかる。新型コロナウイルス感染症拡大期には、筆者が指導した保育所や施設での保育実習において、乳幼児から学生への病気感染や、学生の経路不明の発熱、保育所や施設での感染拡大で実習を中断することが少なからずあった。その対策としては、保育士養成における保健教育の教育内容において、疾病とその予防法、及び子どもの安全管理のため「医療の専門家ではない保育士等」が実用的な知識と技能を習得することが必要であると考えられる。

本実践は、保育士の養成課程における保健教育に関して文献検討を行い、学生が保育士になってから子どもの疾病予防や感染対策、安全管理などの適切な保健活動を行うことができるように、実践的な学びを提供した教育活動の報告である。本学では「子どもの保健」(講義)の履修時期が1年生前期であったため、学生は子どもの発達についても学び始めたばかりであり、学生の理解を助けるためにも講義に併せ模擬体験を行った。本来なら保健活動は養護教諭や看護師が担当すべき活動である。しかし現在の幼稚園・保育所・認定こども園において養護教諭や看護師が配置されている園は多くは無い。そのため、保育士が基礎的な保健活動を行う必要があり、緊急事態においても初動の判断を行い医療の専門家に引き継ぐ必要がある。保育士養成課程では「子どもの保健」で保健教育に関して学ぶ。一方、看護師養成課程では感染症対策と医療安全などについて、まず清潔・不潔の概念など基礎的な教育が行われる。保育士も自らの安全を守り、子ども同士の感染を防ぐためには、看護師同様に感染症対策と医療安全についての知識が重要である。厚生労働省(2011)では、看護教育では侵襲性の高い技術は、対象者の安全確保のためにも臨地実習の前にモデル人形等を用いてシミュレーションを行う演習が効果的な教育方法と述べられている。「子どもの保健」の学びにも看護教育の知見を取り入れ保育現場で実際に役立つ学習とすることで講義の理解も深まり、演

習科目の「子どもの健康と安全」のレディネスとなることが考えられる。

2. 乳幼児施設における看護職

学生達は高等学校「保健」において、現代社会と健康、安全な社会生活、生涯を通じる健康、健康を支える環境づくりについて学んでいる。では、保育士を目指すにあたって、どのような保健活動が必要と予想しているであろうか。保育士は看護専門職ではないが、子どもを保育するにあたって看護や医学の観点からの専門知識を必要とする。三池（2023）の調査によれば、保育所・認定こども園・幼稚園等の乳幼児施設においては保健活動を担う専門家として養護教諭や看護師が配置されることがあるが、幼稚園の設置基準においては養護教諭または養護助教諭（看護師）の配置は努力義務とされており、保育所および認定こども園に関しては現在のところ配置の規定はなく、2019年度に全国の保育所施設における看護職などの専門職配置は33%で、幼稚園の専門職配置は2018年度で3.8%であった。つまり、実際には多くの乳幼児施設では保育士や幼稚園教諭が保健活動を行っていることがわかる。

3. 保健学習の実際について

保育士養成カリキュラムの保健に関する科目は「子どもの保健」（講義2単位）と「子どもの健康と安全」（演習1単位）がある。「子どもの保健」（講義2単位）の目標をTable 1に示す。「子どもの保健」（講義）は各学習項目を「理解する」ことであり、「子どもの健康と安全」（演習）の目的は各学習項目を「具体的に理解する」こととなっており、内容にも応急処置、救急処置、救急蘇生などが含まれる。

筆者は医療職ではなく教員であったが、実践的な学びの有効性を経験した。特別支援学校での導尿補助、血糖値測定、インシュリン注射補助、気管カニューレ内の痰吸引の医療ケアの担当として、厚生労働省社会・援護局通知に基づいた基本研修を受講し、講義だけではなく模型を使ったシミュレーションや動画を視聴した。痰の吸引は子ども対象には練習できないが、模型なら自信がつくまで何度も練習できる。また、消防士によるAED・心肺蘇生訓練や救命シミュレーションは、実際には経験することがまれである子どもの心肺停止を、動画やシミュレータによって心停止から心拍再開を経験することができた。今井・中山・舟木・北村（2020）は看護学生を対象としたシミュレータ教育の学習効果について、【実際に体験することによるイメージ化の促進】、【自己の実践の振り返り】、【実践を繰り返すことによる学びの深まり】他の項目をあげている。これらを参考にして「子どもの保健」（講義2単位）における学習効果の向上に関して検討し、学習の動機付けや現実的な学びとするために講義に併せた「具体的」な教授方法は効果的だと考え実践した。感染症、誤飲・誤嚥、外傷等に着目した動画視聴や模擬体験、シミュレーションを実践し、学習終了時における学生の感想を報告する。筆者の経験で、他大学において繊細な学生が少数存在したため出血などの恐れを

感じる画面はできるだけ使用しないように配慮した。

Table 1 【科目名】 子どもの保健（講義2単位）の目標

〈目標〉

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

4. 実際に体験することによるイメージ化の促進

講義において、学びの具体化と理解の促進のために適宜画像、動画や模型を使用した。視聴前の質問にはほとんどの学生が見たことや経験したことが無いと答えた。授業後に回収した授業プリントの感想には、新生児人形や動画により具体的な状況が理解しやすく、興味を持ち、自分が救急対応をするイメージを持てたという反応があった。

画像、動画、模型の視聴

胎児の発育、出産…書籍の画像や静止した画像を使用した。出産の動画は出血や陣痛を伴うため用いなかった。

新生児の様子…画像、動画、新生児人形を使用した。実際に学生に身長 50cm、体重 3000 g の新生児人形を抱かせ、首の座り、抱き方について体験させた。(Figure 1) 新生児人形と排便時のおむつ替え実習により感染予防対策についても指導した。

様々な感染症について…細菌やウイルスの画像やイラストで具体的なイメージを理解させた。怪我の対処法は、出血場面がイラストの教材を使用し、抵抗なく視聴できるよう配慮した。

動画…乳児の誤飲・誤嚥 (Figure 6)、てんかん発作とその対応 (Figure 2, 7)。

救急法…背部叩打法、胸部突き上げ法、腹部突き上げ法。新生児人形を用いた。

エピペン（アナフィラキシー補助治療剤）の実物と練習用エピペントレーナー。(Figure 3)

エピペンを打つ動画。(Figure 4) 子どもの嘔吐。(Figure 5)



（新生児の身長と体重で首が座らない人形で、泣き声を上げ、授乳、げっぷ、あやす、おむつ替えの実習ができる。新生児の抱き方の注意点や、あやし方を指導できる。

この人形を使用して、背部叩打法や心臓マッサージの実演も行った。学生も自主的に救急法に取り組んだ。）

Figure 1 マイベビー 3YAMAZAKI

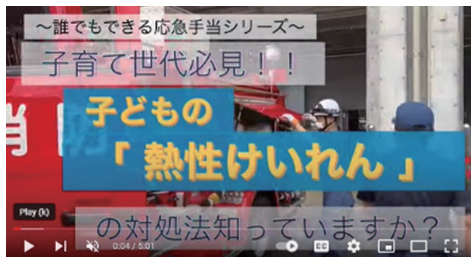


Figure 2 子どもの熱性けいれんの対処法、知っていますか (Youtube 動画)



Figure 3 エピソードレーナー
(実際のエピソードと同じ形で、打つ実習ができる)



Figure 4 エピソードの使い方 (Youtube 動画)



Figure 5 子どもの嘔吐 (Youtube 動画)



Figure 6 窒息事故から子どもを守る
(Youtube 動画)



Figure 7 子どもの障害の理解と支援「てんかん」

救急法などの動画視聴後にシミュレーションを行い、最終レポートでは救命訓練のシミュレーションの作成を課した。

5. 自己の実践の振り返り

毎回の講義の終了時に、学習内容の振り返りの小テストを行った。5回の講義が終了すると、学習内容の振り返りの中から出題するテストを実施し、学習の定着を図った。

6. 研究の方法

①調査対象

子どもと保健を受講した18人の大学生

②調査期間

調査は20XX年4月および7月に実施した。

③調査内容

4月の調査は「子どもの保健で学びたいことは何ですか」の問いに対する自由記述の回答を依頼した。その後15回の講義を実施し、最終日に再びアンケートを行った。7月の調査は「この授業で初めて知って印象的だったことは何ですか。この授業で恐怖を感じたので見たくなかったことは何ですか。」の問いに対する自由記述の回答を依頼した。

④調査手続き

アンケートはインターネット上のアンケートフォーム Google forms を用い、アンケートの URL の QR コードを作成して配布し、スマートフォンによる回答を依頼した。

⑤分析方法

記述を User Local AI テキストマイニングを用いて集計した。

⑥倫理的配慮

口頭とアンケートの冒頭で、本調査で得られた情報は研究目的に使用し、個人名は出さずに統計的に処理すること、アンケートへの参加及び回答は任意であり、回答しないことによる不利益は無いことを説明し、アンケートの質問に参加への同意欄を設けた。同意が得られた回答のみを研究に用いた。

7. 結果

①4月の問いの回答は18人で、回収率100.0%であった。

「子どもの保健で学びたいことは何ですか」に対する自由記述の回答を Google forms で集約し、結果を User Local AI テキストマイニングを用いて集計した。Table 2 に名詞、Table 3 に動詞、Table 4 に形容詞を示し、Figure 8 に共起キーワードを示した。

スコアは、「一般的な文書でよく出る単語は、重要ではないため、重み付けを軽くする」一方「一般的な文書ではあまり出現しないけれど、調査対象の文書だけによく出現する単語は重視する」という仕組みを取り入れて TF-IDF 法で統計処理をした数値である。出現回数は回答中に出現した単語の回数である。自由記述のため、文章の長さには個人差がある。名詞のスコア（重要度）の上位3語と動詞と形容詞のスコアの上位1語をゴチックで示した。共起キーワードは、文章中に出現する単語の出現パターンが似た語を線で結んだ図であり、出現数の多い語ほど大きい円で、また共起の程度は強い方から順に 太い実線 > 細い実線 > 破線で描画される。青は名詞、ピンクは動詞、緑は形容詞である。

Table 2 名詞 (4 月)

名詞	スコア (重要度)	出現回数
子ども	1.96	7
感染症	7.36	4
病気	0.63	4
子供	0.18	4
予防	1.07	3
アレルギー	0.34	3
対応	0.16	3
子どもの発達	17.29	2
障害	0.43	2
支援	0.34	2
骨	0.30	2
小学校	0.25	2
仕方	0.05	2
ライフステージ	4.03	1
命取り	1.41	1

Table 3 動詞 (4 月)

動詞	スコア (重要度)	出現回数
学ぶ	6.56	12
知る	0.09	6
思う	0.01	4
持つ	0.01	2
折る	0.15	1
保つ	0.11	1
かねる	0.07	1
関わる	0.03	1
着く	0.02	1
なれる	0.01	1
聞く	0.00	1
いく	0.00	1
食べる	0.00	1

Table 4 形容詞（4月）

形容詞	スコア（重要度）	出現回数
詳しい	0.20	3
強い	0.02	2
かかりやすい	1.83	1
小さい	0.02	1
弱い	0.02	1
よい	0.00	1

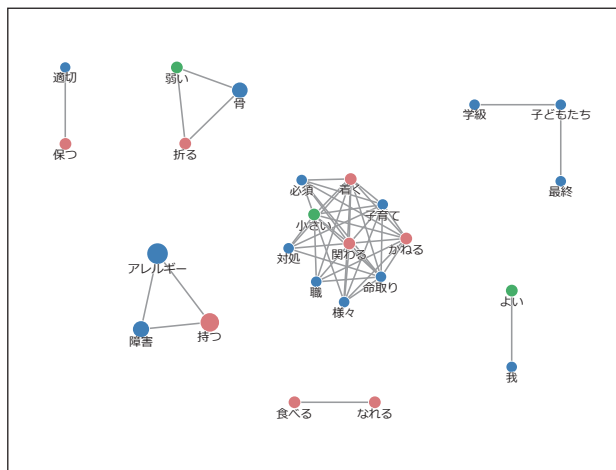


Figure 8 共起キーワード（4月）

②授業終了後の7月の調査結果は、出席14人のうち回答14人で回収率100.0%であった。

「この授業で初めて知って印象的だったことは何ですか。この授業で恐怖を感じたので見なくなかったことは何ですか。」との質問に対する自由記述の回答をGoogle formsで集約し、結果をUser Local AIテキストマイニングを用いて集計した。Table 5に名詞、Table 6に動詞、Table 7に形容詞を示し、Figure 9に共起キーワードを示した。名詞のスコア（重要度）の上位3語と動詞のスコアの上位1語をゴチックで示した。

Table 5 名詞 (7 月)

名詞	スコア (重要度)	出現回数
子ども	0.67	4
対処法	3.64	3
エビペン	11.72	2
誤飲	5.26	2
感染症	2.39	2
虐待	1.07	2
種類	0.19	2
乳幼児	1.51	1
応急処置	1.06	1
投与	0.92	1
存在自体	0.85	1
補助	0.27	1
反射	0.21	1
防止	0.18	1
感染	0.17	1

Table 6 動詞 (7 月)

動詞	スコア (重要度)	出現回数
学べる	1.45	2
思う	0.00	2
つまる	0.09	1
叩く	0.03	1
触る	0.03	1
書く	0.01	1
いける	0.00	1
知る	0.00	1
しまう	0.00	1
できる	0.00	1

Table 7 形容詞 (7月)

形容詞	スコア (重要度)	出現回数
多い	0.03	3

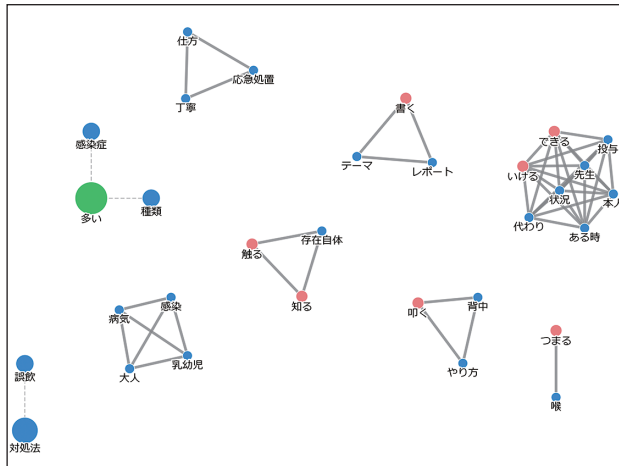


Figure 9 共起キーワード (7月)

「恐怖を感じたので見たくなかったこと」の問いに対する回答は、1 名が「出血場面が苦手だった」で、13 名は「特に無い」であった。

8. 考察

4 月の「子どもの保健で学びたいことは何ですか。」の問いに対する回答からは、「感染症・子どもの発達・ライフステージ」と言う名詞と、「学ぶ」と言う動詞、「かかりやすい」と言う形容詞が重要度の高い単語として抽出された。共起キーワードからは「アレルギーや障害を持つ」と言う事と、子育てに関わる様々な要因が共起していることが示された。これらから、学習開始時の学生の興味関心は、主に日常の保育において起こりうる保健に関して学びたいと考えていることが推察され、回答された単語も抽象的で包括的な語であった。

その後、15 回の講義に加えて前述の画像・動画・模型等を用いて学習した後の、「初めて知って印象的だったこと」に関する問いでは、名詞で「対処法・エピペン・誤飲」が、動詞で「学べる」が重要度の高い単語として抽出された。共起キーワードからは「誤飲の対処法」と「感染症の種類と多いこと」が共起され、誤飲時の救命法である「背中をたたくこと」や「大人と乳幼児の病気・感染」などが共起された。学習開始時の回答と比較すると、より具体的な単語と直接的な対処方法が回答され、講義に加えて画像・動画・模型等を使用した効果により学習が深まり定着したことが推察された。実際に出血を伴う動画などを避け、怪我の処置

は写真ではなくイラストを使用した事などにより、「恐怖を感じたことは特にない。」が大多数と言う結果となった。経験的、視覚的な学びは有効であるが、繊細な学生の心理的な抵抗や学びへの悪影響を配慮することも重要であると考ええる。

これらの保健に関する学びの集大成として、最後の授業では講義に併せ、重大事故を想定した場合の役割分担した救命法を台本に沿ったロールプレイングを経験させ、重大事故対応の救命シミュレーションを立案するレポート課題を出題した。保育現場では、保健活動の対象者だけではなく他の園児がおり、他の園児への対応も必要である。集団を対象としたロールプレイングは現実の保健活動に役立つと思われる。1年次における「子どもの保健」の本実践は、2年次における「子どもの健康と安全」(演習)のレディネスとなり、実際に体験することによる学びの深まりを目指した。

冒頭に記述したように、現行の幼児教育施設では看護職や養護教諭の配置が十分ではないため、その配置の必要性を訴えるとともに、保育士も実践的な学びをすることにより、両者が手を携えてより健康的で安全な保育を提供することができであろう。本研究の限界は、授業における取り組みであったため、対象群を設けられなかったことであるが、今後も先行文献に学び適切な資料を作成し、より効果的な学びを提供する所存である。

文献

- あんふあんぎゅって (2021). 知っておきたい応急手当 #2 嘔吐の対処法
<https://www.youtube.com/watch?v=-9avzuDjDNA> (2024年9月)
- 今井秀人・中山由美・舟木友美・北村敦子 (2020). 看護学生を対象としたシミュレータを用いたシミュレーション教育の学習効果、課題に関する国内文献レビュー, 摂南大学看護学研究, 8-1.
- 磐田 TV (2022). エピペンの使い方.
<https://www.youtube.com/watch?v=Kn5MBqUmpHg> (2024年9月)
- 厚生労働省 (2011). 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書.
- 子ども家庭庁 (2018). 保育所における感染症対策ガイドライン (2018年改訂版).
- 湖南広域行政組合 (2021). 子育て世代必見 子どもの熱性けいれんの対処法、知っていますか.
<https://www.youtube.com/watch?v=H1GAPgR7Vfk> (2024年5月)
- 厚生労働省 (2003). 指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について (改正後全文).
https://www.hoyokyo.or.jp/http://www.hoyokyo.or.jp/nursing_hyk/reference/30-2s1.pdf (2024年7月)
- 厚生労働省 (2018). 保育所における感染症対策ガイドライン (子ども家庭庁).
- 三池 純代 (2023). 乳幼児施設における保健活動に関する文献検討—幼稚園、保育所及び認定こども園の比較から—, 秀明大学看護学部紀要, 5, 1, 73-80.
- 消費者庁 (2021). 窒息事故から子どもを守る. <https://www.youtube.com/watch?v=PaT8fjCNzQI>
- 谷口 豪 (2015). 子どもの障害の理解と支援「てんかん」アローウィン DVD.